

教師の成長と教員養成の課題

教員養成課程の質的な向上に関する協力者会議
(第2回資料)

2009.2.23

油布 佐和子

(早稲田大学大学教職研究科 教授)

報告の内容

0. 議論の前提
1. 教職の現場から見た教師教育の課題
2. 「課題探求型」授業の設置
3. 設置によるメリット
4. 最後に

0. 議論の前提 ①

☆学校種の多様性
☆養成機関の多様性 } を踏まえること

→ 具体的すぎる詳細な内容は、現実的ではないし、現場をゆがめる

☆大学(養成機関)と行政の対応を考えると

→ 行政主導は、効率的かもしれないが硬直する/別の可能性を阻害する

0. 議論の前提 ②

● 養成課程における問題

パイの取り合い (教科・教職・(教養))
総花化(あれもこれも)した知識の要求

→ 学習する内容の増加

1. 教職の現場からみた 教師の成長と課題①

☆ 優秀な教員

＜盗む＞行為による成長

＝先輩教師、書籍等から役立つと考えるものを取り入れ、アレンジ

問題点； 個人の意欲、センス、資質に
頼った成長の仕方

経験知

1. 教職の現場からみた 教師の成長と課題②

★ 一般的な教師の成長

意欲があったとしても起こりうる問題

例) 研究校で

「子どもに意欲が欠ける」←現状認識

「主体的に取り組む子ども」という共通目標

「いろいろな工夫」 ← 総花的な活動

「できた」 ← 満足感、達成感 しかし？

1. 教職の現場からみた 教師の成長と課題③

なにが問題なのか？

→ 現状を把握する力、自分の問題点を振り返る<客観的な力>

現状を分析する力

語句の定義

データや、資料を集め、読み、使い、提示する力

論理的にまとめる力

具体的な課題を示す力

省察
Reflection on action

2. 「課題解決型」授業の設置①

■ 「調べ学習」と「課題解決型授業」

詳細に調べるだけでなく

①それを明らかにすることにどのような意味があるのか

②課題の解決にどのように貢献するのか

③何がわかって何がわからなかったのか

→ { 意欲・関心, 行動に結びつく研究,
体験・経験を「科学知」に変換
問題の設定～解決 (実践的)

2. 「課題解決型」授業の設置②

方法＞

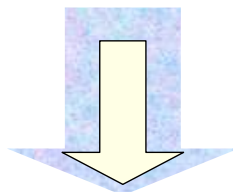
- ◎ 教育調査、事例分析、ポートフォリオ等を用いた、資料の分析・利用
- ◎ data basedな、議論の構想

内容＞

- ◎ 「専門」「教職」「実践」の何れでも可
- ◎ 年間を通した研究(時間的なゆとり)

3. 「課題解決型授業」の メリット① 学生にとって

経験知と経験への依拠/教師の資質に委ねられた成長



自己改善のツール

批判に耐え、外部との議論を可能にする

3. 「課題解決型授業」の メリット② 大学にとって

- ① 理論と実践の対立
棲み分けの問題(研究者と実務家)
の解消
- ② 養成課程の学習の問題の改善
教科と教職
パイの取り合い

最後に — 制度的な問題

